

# C管トランペットの 概念を変える!



## BSC ●プラスサウンドクリエーション TR-C 01S「アルマンド」C管

### 「ロータリーTrp」の ような吹き心地!

●東京佼成ウインドオーケストラ・トランペット奏者

奥山泰三さん

斬新な発想のモデルを発表し続けているBSC (プラスサウンドクリエーション) から画期的なC管トランペット「アルマンド」が発売になり話題を呼んでいる。ベルが長く抜差し管部分が短い従来のC管と違い、アルマンドはBb管をそのまま小さくしたような外観。実はこのユニークなデザインが、これまでのC管の欠点を解消する効果を生んでいる。前からこうしたショートタイプのC管Trpが欲しかったという東京佼成ウインドオーケストラの奥山泰三さんに試奏していただいた。

ています。その意味では、ショートタイプの方がBb管に近い感じで吹ける気がします。

全体がBb管を小さくしたような形で、ベルだけ長いということがないのが原因かもしれません。マウスパイプが極端に短いということもない。ショートタイプのC管は、ロングタイプに比べてマウスパイプがかなり長いですが、それで吹奏感や抵抗の問題が解消されているよう

「アルマンド」は見た目がBb管のように見えますけれど、吹いた感じはいかがですか？

奥山 僕は、Bb管もピッコロもショートタイプの楽器を使っていますし、過去にもショートタイプのC管にトライしたことがあるので、デザイン的な違和感は全く感じませんね。

普通、Bb管からC管に持ち替えるとなんらかの形でストレスを感じるもので、僕が普段使っているC管は、吹奏感が同じになるようなベルの形状を選んだり、C管用のマウスピースを使ったりして、持ち替えてもストレスがない方向にセッティングし



Bb管 (上/BSC) と比べるとアルマンドの外観の特長がよく分かる。

設計者からのメッセージ

「深みのあるオーケストラサウンドと、俊敏なレスポンスを併せ持つ！」

●加藤朋海 (BSC設計者)

「なぜC管を開発するのにこれだけ時間がかかったの？」とよく聞かれます。でも、ワインや恋愛などに似て、楽器も時間をかけないと熟さないものがあるのです。

C管はオーケストラの主役で、そういった場で活躍されるハイレベルの音楽家から要求される基準は非常に高く、それに反してC管トランペット自体が持つ物理的性格(定め)がそれとは全く逆の方向にあるため、この二つを結びつけるにはいろいろな難問が立ちだかっています。例えば、音色はBb管同様「深みがありシンフォニック」で、それでいてオケの木管のような音量でも小回りがきく反応が要求されるなど、不可能な要求がリストアップされるからです。

10年以上前にシカゴ交響楽団にBSCのBb管を見せたとき、「こんな楽器をC管で作って欲しい」といった声がありました。C管の場合、歴史的にこれといったズバ抜けた楽器がなく、すべて自分でゼロから理論的に組み上げてきたため、この研究に終わりはないと思っています。

★

2005年にC管の故郷フランスでテスト販売を開始し、その過程で知り合った音楽家の意見と、数多くのドイツのオーケストラ奏者との交流の中から生まれたのが、この「アルマンド」です。

楽器の特徴はBSCのBb管同様、ヨーロッパ伝統の深みがあり、芯のあるオーケストラ・サウンドに加えて、ピッコロのような俊敏なレスポンスも併せ持っています。ラヴェルのピアノ協奏曲やベートル・シュカ、ドビュッシーなどソリスト的な箇所でも木管のように滑らかに対応できます。

アメリカンタイプのオーケストラでも現在は、シューマン、ブラームス、ブルックナーなど縦型(ピストン)の限界を超える曲ではロータリーに持ち換えるのが常識になっていますが、アルマンドは「下手なロータリーよりも気品のある音が出る」と音にこだわるオーストリアでも評価されています。

C管は音程が悪いというのが常識になっていますが、アルマンドは「音程に神経質にならずに吹けるはじめてのC管」として、忙しい毎日をこなすプロの生活を助けてくれます。

★

アルマンドを開発した私の目標は、ドイ

ベルが大きくロータリートランペットのような音がする

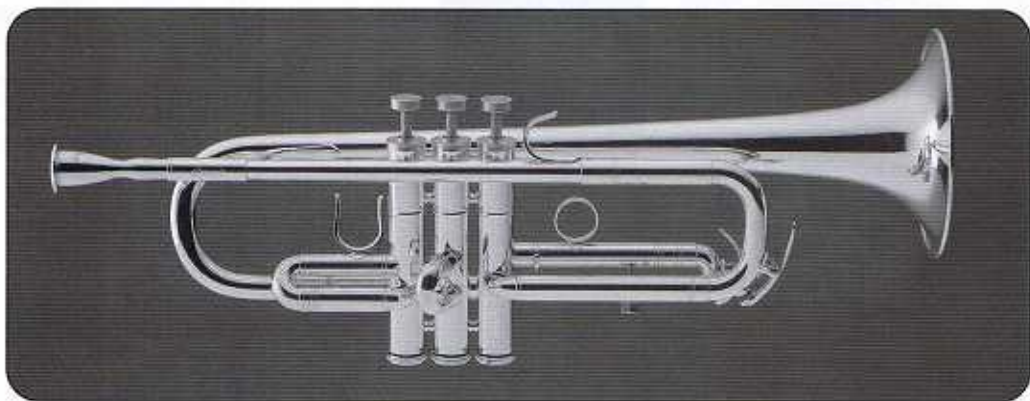
——巻きがコンパクトですから、構えたときの感じも変わりますか？

奥山 ビストンの位置が近くなるので、手の小さい僕にはとても楽です。これだとミュートの着脱も楽。女性や手の小さい人は、この楽器をメインにしてみれば本当に楽だと思いますよ。

——サイズがコンパクトになることで、音がきらびやかになるといっていい？

奥山 他のショートタイプではそういう傾向の楽器もありましたけど、この楽器はきらびやかにはなっていない。逆に、ロータリーのC管のような音がします。しっかりと吹いてしっかり鳴らした方が、楽器の良さが出るといっていいかな。

——ベルがとて大



BSC (プラスサウンドクリエーション)  
TR-C 01S 「アルマンド」(C管)  
¥448,350 (税込)  
ベル材質：イエロープラス特殊2枚取り  
ベル直径：4.960(126mm)  
ボアサイズ：0.460(11.70mm)  
仕上げ：銀メッキ  
\*ダブルケース付属(マウスピースは付属しない)

から小さくならないということ

は全くなく、むしろフォオルテの方がしつ

——その判断は音色？

奥山 音色で選ぶときもあります。C管で吹いた方が指がずつと楽なときも持ち替えます。特に、オケの編曲も

はイメージが違う。

——ダイナミックレンジは？

奥山 楽器がコンパクトだから

——オーケストラではどんなレパートリーに向いていますか？

奥山 音が直線的なタイプではないので、セクシオンで横にハモっていきうような曲に向いていると思います。その意味では、やはりロータリーのレパートリーかな。アンサンブルにも向いていると思いますよ。

——吹奏楽でC管を使う可能性はありますか？

奥山 僕らはけっこう使います。今は、学生時代にC管も勉強してくる人が多いから、楽譜の指定にかかわらずC管が良いと思うときには使います。

オケの難曲も楽に吹けて、吹奏楽での持ち替えにもお勧め



## 「ピストンでヨーロッパ的なダークなサウンドが欲しい」という欲求に応えてくれる！

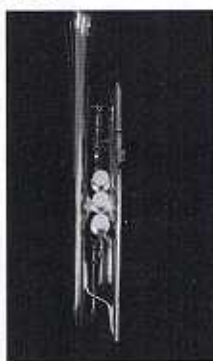


●ベルのサイズが126ミリあり、同社のBb管(122ミリ)よりもかなり大きい。この大きさがロータリートランペットのような音を生む。  
●ウォーターキーが他のピストントランペットよりも長く、「急いで水を抜きたいときに空振りすることがない(笑)。吹奏曲の曲は忙しいからこれだと助かります。(奥山)

のをやるときは、音色面でも指の面でもC管を頻繁に使う。タフニスなどは必ずC管です。ほかに、アンサンブルでバロックものをやるときなどもBb管は厳しいんです。シャープが増えることが多いので。最近ではアンサンブルコンテストでピッコロトランペットを使う団体が増えてきましたが、二長調のピッコロの下に、シャープ4つのBb

管があると、音程がすごいことになってしまいうので気をつけた方がいいでしょうね。

C管を勉強しなかった人は、C管を使うことのためにためらいがあるかも知れませんが、積極的に使ってみるといいと



●ベルと本体をつなぐ支柱がないので、ベルの振動を効けない。

ツのオーケストラだけではなく、「世界最高峰のプロや音大生の今日の要求に答えられる道具」というものでした。今日のオーケストラ奏者はソロ活動や指導も多くこなし、いろいろな分野で最高のレベルを要求されます。音程の悪い楽器で重要な曲をこなすには、音楽以外の無駄な神経の負担になります。かといって音程だけ良くても、音色に表現力がないと音楽家としてはやっていけません。

★

設計技術的にはいろいろ新しい技術が組み込まれています。ベルの加工法もこれまでのBSCのBb管とは少し異なった技術を使っています。そこは企業秘密に属しますので、ぜひご自分でその成果をお試しください。

★

「BSCの楽器に合うマウスピースは？」という問い合わせをよく戴きますが、マウスピースは奏者の歯並びや筋肉の質、呼吸法、音楽のジャンルによって異なる個人的なものですから、いろいろなものを試して自分に合ったものを選ぶべきだと思います。ちなみにBb管とC管では別のマウスピースを使った方が楽器の本当の性能を生かれます。ただし、「一概にC管専用の短いものが良いとは限りません。」

★

ヨーロッパの音大でも、ピストンはほとんどバックの229か239ですが、ミュンヘン音大のハネス・ロイビン教授からは「アルマンドはC管の歴史を塗り替える楽器だ」という賛辞を、コーミッシュオーパー・ベルリンからは「ドイツの魂を秘めたアメリカンのC管」という評価を戴きました。一般的な反応は、「何も考えずに使えるC管」というものです。この一見地味な言葉がどれだけの意味を秘めているかは、毎日舞台上でC管と格闘しているトランペット奏者なら、すぐに理解できると思います。(加藤朋海)

それ以外に、楽器が身体に近いと

あたかもそれの性能が発揮できますね。

思います。BSCの「アルマンド」はその点、Bb管を吹くような感じで吹けますから、これからC管を吹いてみようという人にもお勧めです。  
—— 具体的なオケの曲で、アルマンドを使うと楽だという例は？  
奥山 さっきいろいろ吹いてみたんですが、ストラヴィンスキーの《ペトルーシユカ》のソロでは音程にクセがないから楽だし、楽器の巻きがコンパクトだけと音色が明るくなり過ぎないので、向いていると思います。R・シュトラウスの《アルプス交響曲》のソロでも、高い音が良い音程の良いツポで当たるので、オケの中で吹いても通る音が出ると思います。ロータリーに似ているから、その音を狙ってしっかりと吹かなければいけません。(ツアラトウストラかく語りき)なども吹きやすいかもしれません。上のGを越えたあたりからその性能が発揮できますね。



山野楽器ウインドクルー(東京・新大久保)で、同店スタジオで試奏したあと、スタッフの金子さんに感想を伝える奥山さん。

というのが、心理的にも安心できます。僕は、その理由からピッコロもシヨートを吹いているんです。ピッコロのシヨートだと近くなり過ぎてしまうけど。

—— ほかにこの楽器の可能性は？  
奥山 可能性はたくさんあると思います。学校で教えていると、今は小さい女の子が本当に多いので、こういう楽器があるとありがたい。

それに、昔からの夢だったんですが、「ピストンの楽器でロータリーの音が欲しい」という欲求に応えてくれる楽器でもある、というのがこの楽器の可能性としては最大のものでしょね。ピストントランペットというのと、以前はフランスタイプ一辺倒でしたが、今は日本人にもアメリカ人にも、「ピストンでヨーロッパ的なダークな音が欲しい」という要望が増えてきました。そんな時代の要求に応える楽器だと思えます。